

# 2008 年度前期授業アンケートまとめ

## ー 2008 年度前期授業アンケート結果の概要

### 1 2008 年度の実施趣旨と従来との変更点

#### 【授業アンケート実施目的】

- (1) 科目担当者が個別に授業改善を行うための資料、また教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2) 教員相互に、関係科目の改善について課題を共有し改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3) 授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4) 学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5) 大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

学部の名称変更、学科の改組、新コース設置、新研究科開設に伴い、授業アンケート用紙の記載事項を一部変更した。

#### 【授業アンケート用紙】

以下の点を変更した。

- |            |   |
|------------|---|
| ① 学科等      | 「文化政策」→「文化政策（1 回生は都市環境デザイン）」へ変更<br>「看護学研究科」を新たに追加   |
| ② コース・専攻   | 「埋蔵文化財（考古学）」→「考古学」へ変更<br>「古文書学」を削除<br>新たに児童教育学科において「児童教育学科」「幼児教育学科」の 2 コースを追加<br>新たに現代マネジメント学科において「現代マネジメントコース」と「救急救命コース」の 2 コースを追加 |
| ③ 学科等マーク箇所 | マーク数を一部 9 箇所→10 箇所に変更   |

### 2 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2008 年度前期開講科目および通年開講科目の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

### 3 調査期間

調査期間は 2008 年 7 月 3 日（木）から 7 月 30 日（水）まで。

アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。

\*2008 年前期の回収率は全体で 77.66%となった。

（参考：2007 後期 76.28% 2007 前期 78.66% 2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79%）

### 4 調査設計

調査項目の基本構造は前年度までと同じである。

- (1) 学部・学科・回生・コースなどの基本データ
- (2) 授業についての選択項目 16 項目
- (3) 授業についての自由記述 4 項目

基本データおよび選択項目については、マークシートを採用し、データ処理をおこなった。自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

## 二 2008 年度前期授業アンケート結果の特徴と傾向

### 1 授業形態別の結果比較

#### a. 授業形態別の「総合」結果の比較 … データ①

##### 全体のポイントは横ばい。配慮・授業外学習・改善・自主学習でやや伸びがみられる

全体として見れば、評価ポイントは横ばい。評価ポイントが下がった項目は表に 5 箇所あるが、どれも極めて微小。項目別に見ると、比較的大きめの伸びがみられたのは「配慮」「授業外学習」「改善」「自主学習」であった。特に演習では「自主学習」が 0.20 ポイント上昇し、実技・実習では「授業外学習」が 0.27 ポイント上昇した。

#### b. 授業形態別「総合」結果の分布 … データ②

##### 「講義」では 1～2 点台の授業が増加傾向。「演習」では高い得点分布の一方で特定科目が 2 点台に

「総合」項目の結果を授業形態別の分布でみたグラフでは、講義では 1 点台後半から 4 点台後半まで広く分布している。授業数の増加も考慮しなければならないが、近年、特に 1～2 点台の講義が増加傾向にある。

演習では多くの科目が 4 点台以降に分布しており、高い評価を得ているが、一方で 2 点台の分布も固定してきている。

語学は 3 点台後半から 5 点までゆるやかに分布している。

実習・実技ではサンプル数が少ないが、全て 4 点以上であり、高い評価を得ている。

#### c. 授業形態別・学科ごとの「総合」結果の分布 … データ③

##### 学科ごとに「総合」結果の分布傾向が異なる

学科ごとの「総合」の結果について、授業形態別（講義・演習）の分布では、かなり傾向が異なる。学科ごとの科目分布では、児童、看護で評価の低い科目も目立つ。

### 2 外部委託科目の結果

#### a. 英語系科目の結果 … データ④

##### 本学教員・非常勤講師の各ポイントはやや上昇傾向。ECC 教員との差は変化せず

ECC 派遣教員が「出席」以外のすべての項目で、それ以外の教員を上回った。

本学教員・非常勤講師のポイントは各項目とも上昇傾向にある。前年度のアンケートと比較した場合、「総合」「出席」で低下しているが、いずれも 0.04 ポイントという微小な差である。最もポイントが上昇したのは「配慮」であり、0.1 ポイントの上昇であった。

ECC 派遣教員のポイントは各項目とも総じて高めであるが、前年度と比較すると「明瞭」「将来」「興味」「触発」「出席」「学習意欲」で低下している。

#### b. 情報系科目の結果 … データ④

##### 総合ポイントの差が 0.89 まで広がる。全体的に本学教員・非常勤講師のポイントが大幅に低下

ECC 派遣教員がすべての項目で本学教員・非常勤講師を上回った。

本学教員・非常勤講師のポイントを見てみると、「授業外学習」以外のすべての項目で低下しており、最も低下した項目は「理解」の 0.45 ポイントであった。「総合」で 0.42 ポイント低下し、「興味」では 0.40 ポイント、「触発」では 0.38 ポイント低下していた。

ECC 派遣教員のポイントは全体的に横ばいであるが、総じて高い評価を得ている。

### 3 「総合」項目と他の項目との相関関係

… データ⑤

#### 「私語・環境」「改善」との相関関係が強まる。実技・実習では傾向が変化

4 形態に共通して相関関係が特に強いのは、「明瞭」「学習目標」「意欲」「改善」「理解」「興味」「触発」である。07 前期と比較すると「私語・環境」「改善」と「総合」との相関係数に上昇がみられた。

他の授業形態と比較すると、語学では特に「配慮」との相関関係も強いようである。

実技・実習では、07 前期において「学習目標」「将来」が特に強い相関関係を示していたが、2008 年前期ではこの2 項目のポイントはそれぞれ 0.17 ポイント、0.22 ポイント低下し、その他の項目は大幅に上昇した。相関係数の傾向は他の授業形態と同様となった。

### 4 学科別の集計結果

#### a. 学科別・科目別の全体集計

… データ⑥

#### 全体的に評価ポイントは微増だが、ポイント上昇の学科(科目)と低下の学科(科目)が明確に分かれる

ベーシックスキル(情報)では、すべての項目でポイントが低下した。データ④の ECC 教員と本学教員・非常勤講師との比較も参照。

ベーシックスキル(数学)では、「私語・環境」「学習意欲」でやや低下がみられたが、「明瞭」「学習目標」で特に大幅な上昇がみられた。

歴史ではすべての項目で大幅な低下がみられた。しかし、数値自体は他学科と比較して同水準にある。

児童教育では「出席」での微小な低下以外、全項目にわたって大きめの上昇がみられた。

現マネでは全項目、大きな上昇がみられた。救急救命コース開設の影響が現れていると思われる。

キャリア(全体)では「出席」は横ばいであるが、その他の項目はポイントが大幅に上昇した。特に「配慮」「理解」「興味」「触発」「将来」「自主学習」等、キャリア科目設置の趣旨と合致する項目が大きく上昇し、本学のキャリア教育の成果が表れている。

資格についても「私語・環境」が横ばいのほか、その他の項目では上昇がみられた。

院文・院政の満足度は高い。また、院看護では初めて授業アンケートを実施したが、全体的に極めて高い数値が出た。

#### b. 学科別・ゼミ別の集計

… データ⑦

#### 1～3 回生のゼミの評価は上昇傾向。4 回生では低下

##### 【1 回生演習について】

日語日文コースでは全項目ポイントが上昇した。ただし、2008 年前期の分析から 1 回生演習の日語日文コースと書道コースを分けて分析しているので、単純な比較はできない。文化財では「出席」が横ばいのほかは、全ての項目でポイントが上昇した。今年度からアンケートを実施した救急救命では総じてかなり高めの数値であった。都市環境デザインではポイントが低下した項目がやや目立った。

1 回生演習全体では評価は横ばいであるが、特に「自主学習」では全学科でポイントの上昇がみられ、昨年度評価が低かった英コミ・都市環境デザイン(昨年は文化政策)では 2 点台から 3 点台へ上昇した。

##### 【2 回生演習について】

英コミでは「自主学習」「出席」が横ばいのほか、全ての項目で評価が低下した。特に SAP-Prep での低下が目立つ。日語日文では全項目、評価が上昇した。特に「授業外学習」「私語・環境」での伸びが著しかった。初めて 2 回生でのアンケートをとった児童教育学科では全ての項目の数値が高かった。看護では全ての項目が上昇し、もともと高めであった評価がさらに高くなった。

2 回生演習全体では評価は上昇。

### 【3 回生演習について】

文化財は全ての項目でポイントが上昇した。特に「改善」「授業外学習」「配慮」等で大きな伸びがみられた。文化政策は全ての項目で大幅に評価が上昇した。07 前期は他学科と比較して数値が低めであったが、08 前期は他学科と同水準にある。現マネは「出席」で横ばいであるほかは、全ての項目で評価が上昇した。

3 回生演習全体では評価は上昇。特に「改善」は全ての学科で評価が上昇した。

### 【4 回生演習について】

英コミでは全ての項目で評価が低下したが、数値自体は高めの水準にある。ただし「私語・環境」「触発」「出席」等、大幅に低下している項目もあるので今後の注意が必要である。日語日文では総じて評価が上昇した。特に 07 前期に低めであった「改善」が大幅に上昇した。文化財は 07 前期に低めであった「改善」が上昇したが、「出席」で低下した。現マネは総じて高い評価であった。文化政策は全ての項目で大幅に評価が低下し、3 点台の評価が増えることとなった。

4 回生演習全体では評価は低下。

## 三 基本データ

### 1. 基本データ

以下の 6 項目とした。

①科目名 ②クラス ③学部(院)・学科 ④回生 ⑤コース ⑥科目コード

### 2. 授業についての選択項目

下表の 16 項目について [1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまると思うもの一つのみマークさせた。

質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

【A. 教員の授業方法について】	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]
⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
【B. あなたの理解状況について】	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]
⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
【C. あなたの授業態度について】	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学習]
【D. 総合・その他】	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

### 3. 授業についての自由記述項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ①この授業のどの点がよかったですか。
- ②この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③良くなかった点を改善するためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

### 4. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

①アンケート用紙の配布は封筒で行う。②授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示する又は教室内に封筒を回す、あるいはクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。③その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないよう指示をする。④提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、業者(京都電子計算)へ渡す。①基本データと、②授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、②については読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

### 5 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

#### 回生別回収率

	全受講登録者	1回生	2回生	3回生	4回生	大学院生	回生不明
登録者数	28025	9955	10931	4622	2106	185	226
有効回収数	21765	8126	8429	3282	1145	207	576
有効回収率	77.66%	81.63%	77.11%	71.01%	54.37%	111.89%	254.87%

(参考：2007 年後期 76.28% 2007 前期 78.66% 2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79%)

\*有効回答数＝登録者数－欠席者

\*有効回収率＝有効回答数／登録者数

\*2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データは 0 である。

- 1)読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。
- 2)科目コードと所属を、マークに加えて科目ごとに袋で管理し無効(不明)データを無くした。

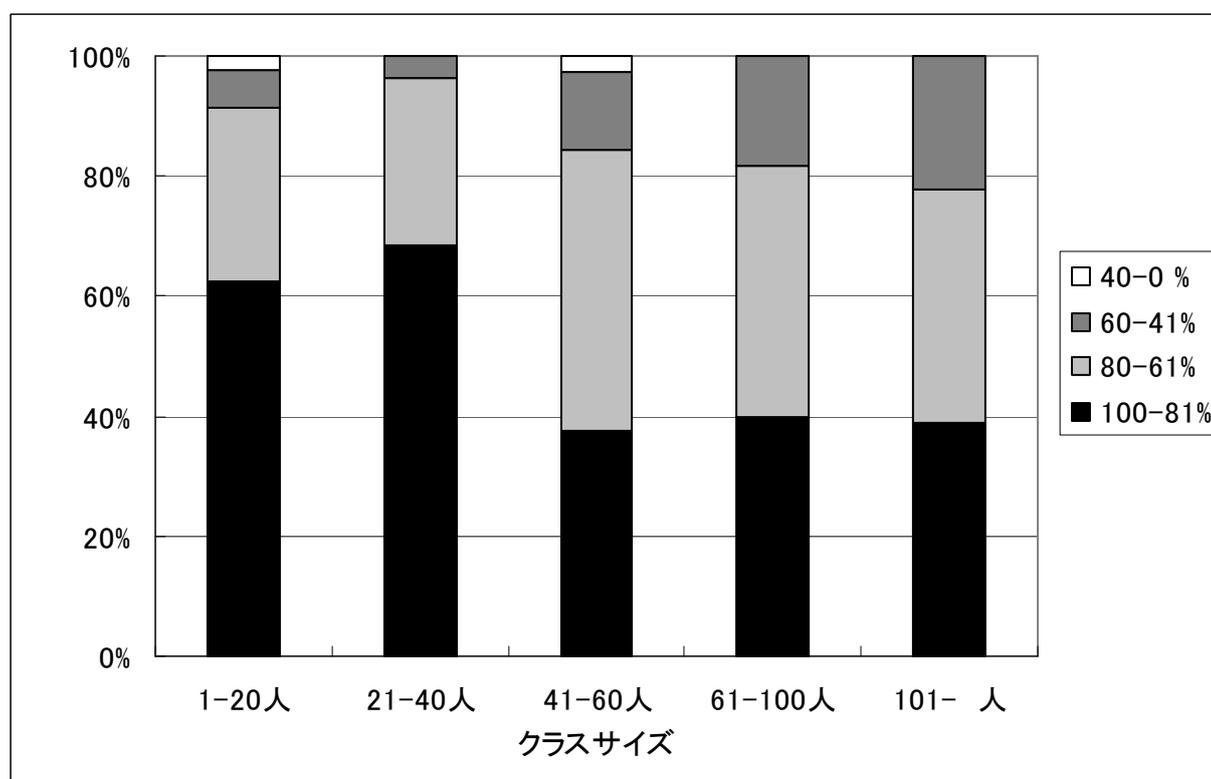
#### 所属別回収率

	英コミ	日文	歴史	文化財	児童	現マネ	文政	看護
登録者数	1714	3270	4327	2339	3153	4582	4459	3770
有効回収数	1244	2639	3339	1790	2704	3024	3068	3297
有効回収率	72.58%	80.7%	77.17%	76.53%	85.76%	66%	68.8%	87.45%
	院文	院政	院看護	学科不明				
登録者数	83	63	39	226				
有効回収数	51	81	109	419				
有効回収率	61.45%	128.57%	279.49%	185.4%				

児童教育・看護の回収率が高く、現マネの回収率がやや低めであった。

クラスサイズ別回収率

回収率 クラスサイズ	100-81%	80-61%	60-41%	40-0 %	合計
1-20 人	162	75	16	6	259
21-40 人	149	61	8	0	218
41-60 人	29	36	10	2	77
61-100 人	24	25	11	0	60
101- 人	28	28	16	0	72
計	392	225	61	8	686



6. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率は 5.6% と低い数値だった。50 科目／898 科目（自由設定項目の利用科目数／アンケート実施全科目数）

\*2007 年後期 6.1% 2007 年前期 3.5% 2006 年後期 16.4% 2006 年前期 約 5%

以上